

公益財団法人豊橋文化振興財団情報誌

2014年9月—10月

プラット ニュース

vol. 9



TOYOHASHI
ARTS
THEATRE
PLAT

『鷗外の怪談』 10月29日
PLAT主ホール

作・演出 永井 愛

鷗外という
「ミステリーの迷路」
を彷徨い中。



2011年に『シングルマザーズ』、2012年に『こんばんは、父さん』と新作を上演し、PLATオープンの昨年には、岸田國士戯曲賞『兄帰る』の14年ぶりの再演と、代表作を毎年お届けしてきた永井愛作品。今年は、待望の新作『鷗外の怪談』が登場します。夏目漱石『明暗』を現代版にした『新・明暗』、樋口一葉を描いた『書く女』に続く、いわば、近代日本の文豪に迫る第3弾。それにしても、なぜ「怪談」なのか。そして、物語はどう生まれていくのか。開幕4か月前の6月のある日、永井さんを二兎社に直撃。未だ構想を練る段階という捻破り(?)のインタビューを試みました。

撮影：谷古宇正彦

——『鷗外の怪談』というタイトルがとても魅力的です。

永井●そもそも「鷗外って不思議な人だね」と思ったのが始まりです。不思議→ミステリアス→怪談という連想で、タイトルが閃いた。何が不思議かっていうと、鷗外は2つの相反する道を常に自分の内部に持っている。その最たるものが、軍医であり文学者であることですよ。軍医といっても陸軍軍医総監というトップ官僚ですから、国の中枢にいたわけですよ。一方の文学者としては、限りなく表現の自由を求める存在。しかも、『ヰタ・セクスアリス』が「公序良俗を乱す」と、発禁処分を受けてもいる。1909年です。社会主義や無政府主義などの「危険思想」が次々発禁処分になる時代で、鷗外は、そのことにすごく怒っていた。国への批判を封じれば、国家としての成熟を遅らせると。

日露戦争に日本が羸うじて勝って、「一等国、一等国」って叫びながら第一次世界大戦に向かっていく頃で、ちょっと今の時代にかぶさるところがある。そんなことから考えると、官僚と文学者のバランスはすごく難しかったんじゃないか。だって、朝は軍医として馬に乗って出かけて、夕方帰ってからは小説家になって、来客もいっぱいある著名人で、翌朝にはまた、軍服を着て出かけるわけですから。やっぱり不思議で、そういう「鷗外というミステリーの迷路」をね、今だからこそ、しっかり見つめてみたいと。

鷗外さん、
あなたの本心は……

——そうすると、鷗外の人生のなかでも思想が取り締まられていく時代にフォーカスするわけですか。

永井●はい。もうちょっと言ってしまうと、大逆事件裁判が行われた1910年の終盤から11年にかけての4か月です。鷗外は、山縣有朋の永錫会という私的諮問機関で社会主義者を取り締まる相談をしていた気配があるんですけど、一方で被告を救おうと弁護士側の相談にも乗っている。もう、びっくりしちゃう。じゃあ、この危うい橋を渡りきって出世もして文学者として名も遺して、「うまくやったね」と思ったかといえば、実はとても揺れ動いていたんじゃないか。そういう形跡もあって、「あなた、本心はどうだったの?」って、ものすごく聞いてみたくなった。

じゃあ、鷗外が卑怯だったのかといたら、なにかね、「わかるわ」って。大逆事件そのものがでっち上げで、しかも、今の特

定秘密保護法の先行きを彷彿とさせるような完全秘密裁判で、多くの人々が「絶対におかしい」って感じていた。なのに、止められなかったんですよ。そこにマジックがかかっている。あの時代だけじゃない、ずっと流れる日本人のメンタリティを象徴するようなマジック。「表現の自由」と叫びはするけれど、強い者に強く言えない、具体的な自分の考えとなとなかなか自由に表現しえない。それから、鷗外は山縣有朋をすごく大切に思っている。「この人を裏切れない」という義理の感情も働いたんじゃないか。——それよりだいぶ前にドイツに留学していましたよね。その体験は、どうだったのでしょうか。

永井●1884年から88年かな。明治期の日本からドイツに行った人の驚きたるや、想像を絶するものだったはず。鷗外は、「西洋帰りの保守主義者」って自分で言っていて、ドイツに行ってドイツに憧れて、だけれど、憧れれば憧れるほど日本が愛おしくなった。それで、泣きながら西洋に学んだのね。悔しいけど、西洋に学ばなければどうしようもないと。ここでも、西洋と日本と、2つに割れている。ドレスデンでは、ナウマンという人の日本人論に反論して、株を上げている。「東洋人をバカにするな」という思いの強さを示すエピソードです。一方で、やっぱりドイツで暮らしたからだと思っただけけれど、あの時代にしては女性をとてまきちんと評価している。樋口一葉をいちやく素晴らしって褒めたのは鷗外だし、『青鞥』も積極的に応援しているし、結婚は両性の意思によるのが大事とも言っています。そういうところも、鷗外の暮しの中でちゃんと書きたいなと思っているんですけど。

イクメンにしてマザコンの複雑さ

——それでこそ、永井さん！『舞姫』のモデルとなったエリスが来て帰国したあと、結婚して、すぐに離婚して、10数年後に再婚しています。

永井●その生活のなかにもやっぱり、2つの立場を抱えた鷗外がいるんですよ。エリスと別れたときもいろいろ周囲との葛藤があって、鷗外はその反発や自己嫌悪で、やたらに論争をしかける時期があったそうなんですが、私が好きなのは、しげつという2番目の妻。良妻賢母どころか、悪妻とまで言われたんですけど、ものすごく正直な人でね。鷗外の母親、つまり姑と壮絶なバトルを繰り広げている。鷗外はというと、家長としてふんぞり返っていたわけで

はなくて、とてもいいお父さんで、子どもが夜中に「おしっこ」って起きると、「ああ、そうかい」って手を繋いでトイレに行き終わるまで待っている。「パッパ！」って来ればひょいと抱きあげるし、弁当を作ってやったりもしている。

ただ、完全なマザコンでもあるんです。お母さんが津和野藩医の娘で、お父さんは婿養子。どうもお父さんの影が薄いよね。お母さん自身は「女だから読み書きなんかできなくてもいい」って言われて育ったのに、鷗外に漢文を勉強させるために、自分の母親に「女でございますが、文字を勉強してもよいでしょうか」って許可を得て、鷗外と一緒に漢文を学んだ。一方、津和野藩の教えは、外国に学んでも魂までは取られるなという和魂洋才。そういう国家観と、立身出世させようとする母とがだんだん重なっていくんですね。嫁にもいい夫であり、母にもいい息子であるという、その複雑さが非常に面白い。

鷗外を調べていると面白くて、どんどん広がっちゃって、資料だけ読んでいたらどんなにいいだろうって思うぐらい。それをどう芝居に活かすかといえ、いかにうまく捨てるかにかかっている。

——なるほど。これからは「産みの苦しみ」というわけですね。舞台を楽しみにしています。

〔聞き手＝芸術文化プロデューサー・中島晴美〕



〔ながいあい〕劇作家・演出家。二兎社主宰。「言葉」や「習慣」など、身近や意識下に潜む問題をすくい上げ、現実の生活に直結したライブ感覚あふれる劇作を続けている。日本の演劇界を代表する劇作家の一人として海外でも注目を集め、「片づけたい女たち」、「こんにちには、母さん」などの多くの作品が、翻訳・リーディング上演されている。代表作に「歌わせたい男たち」「ら抜き殺意」など。紀伊國屋演劇賞個人賞、鶴屋南北戯曲賞、岸田國士戯曲賞、読売文学賞、朝日舞台芸術賞松元松代賞などを受賞。

●森 鷗外 略年譜

- 1862 [文久2年] 1月19日、島根県鹿足郡津和野町で生まれる。本名、森林太郎。
- 1874 [明治7年] 1月第一大学区医学校(現・東京大学医学部) 予科に実年齢より2年多く偽り、12歳で入学。
- 1877 [明治10年] 西南戦争
- 1881 [明治14年] 東京大学医学部卒業、陸軍軍医副を任ぜられる。
- 1884 [明治17年] ドイツ留学(陸軍省派遣)。後の『舞姫』のモデル・エリーゼと出会う(2013年、彼女の写真が発見される)。明治21年に帰国。鷗外を追ってエリーゼも来日したが1か月で帰国。
- 1889 [明治22年] 海軍中将男爵・赤松則良の長女・登志子と結婚。
- 1890 [明治23年] 『舞姫』発表。長男・於菟誕生するも登志子と離婚。
- 1894 [明治27年] 日清戦争開戦
- 1902 [明治35年] 判事・荒木博臣の長女・しげと再婚。翌36年、長女・茉莉誕生。
- 1904 [明治37年] 日露戦争開戦
- 1907 [明治40年] 次男・不律誕生(翌2月死去)、陸軍軍医総監に任ぜられる。
- 1909 [明治42年] 次女・杏奴誕生。与謝野鉄幹、晶子とともに文芸雑誌『スバル』発行。創刊号の発行名義人は石川啄木、発行所の住所は大逆事件の弁護士・平出修の法律事務所。『半日』発表。自らの家庭生活を赤裸々に描き、妻・しげの存命中は再版できなかったと言われる。『中々・セクスアリス』を発表するも発禁となる。
- 1910 [明治43年] 5月大逆事件、8月韓国併合。11月『沈黙の塔』発表。
- 1911 [明治44年] 三男・類誕生。
- 1922 [大正11年] 7月9日死去。

二兎社『鷗外の怪談』

- 作・演出＝永井愛
- 出演＝金田明夫／水崎綾女
内田朝陽／佐藤祐基／高柳絢子
大方斐紗子／若松武史
- 日時＝10月29日 [水] 18:00開演
- 会場＝PLAT 主ホール
- 料金＝[全席指定] S席:5,500円
1階バルコニー席:4,500円
A席:4,000円
- チケット発売:会員先行＝8月9日 [土]
一般発売＝8月24日 [日]

プレトーク

公演に先立ち、作・演出の永井愛と翻訳家で演劇評論家の松岡和子によるプレトークを開催します。

- 出演＝永井愛／松岡和子
 - 日時＝10月28日 [火] 18:00開始
 - 会場＝PLAT 研修室(大)
 - 参加料＝無料。定員60名、要事前申込
- ※公演チケットの有無は問いません ※お申込み:8月9日 [土] よりプラットチケットセンター窓口・電話にて申込。定員に達し次第募集終了。

『世界は嘘で出来ている』

10月16日・17日
PLATアートスペース

作・演出

芸術文化アドバイザー

田村孝裕 × 平田 満

司会＝中島晴美 [芸術文化プロデューサー]

ひとがいて、会話して、 物語が動き出す。

昨年6月、PLATプロデュース『父よ!』（アートスペースこけら落とし公演）で作・演出を務めた劇作家・演出家の田村孝裕さん。自身が所属する劇団ONEOR8『世界は嘘で出来ている』による初の豊橋公演が、この秋実現します。しかも、豊橋を起点に東京公演へという、『父よ!』と同じコース。そこで、『父よ!』の仕掛け人ともいえる平田満との対談で、「田村流・物語の創り方」の秘密に迫ってみました。

ラシの写真みたいな小っちゃい部屋に「世界」を置きたかったんです。「世界」っていうのは、いわゆる「この世」も、劇中の「世界」も、いろんな意味で言っちゃってるんですけど。この部屋で亡くなった人がいて、孤独死なんですけど、そこを片付ける掃除屋さんっていう。僕は、結末を決めて書くタイプじゃなくて、人が転がっていくとどんどん話が変わるから、本当に未知数で申し訳ないんですけど。

ただ、今回はシビアなものをやりたいって、ちょっと思っているフシは自分のなかにあるんです。というのも、ついこの間、親父が亡くなったんですよ。それが、お葬式の場でね、僕と妹以外、葬儀屋さんしか参列者がいなくて、全然知らない他人に棺を持たれている親父を見て、世の中けっこう厳しいなって思っちゃったんです。そういう痛み、僕や妹が感じた痛みの視点をやってみたい。そして、汚れた世界、厳しい世界の中なかでも、すぐに一筋の光みたいなものが見えてくるといいなって。だから、窓をきれいに映したいなんて言ってるんですけど。

僕はなんか、いつも両極端の意見の真ん中にいよう、いようとするとこころがあって、たとえば今はタバコを吸っちゃいけないような社会ですけど、じゃあ、医者がタバコをやめろというのは正しいのか？ というと、そうじゃない視点もあるよね、それを守った人がストレスで別の病気になったらどうすんだ？ とか。まあ、屁理屈ですけど。だから、今度の話でいえば、汚れたものの中



嘘のきっかけは、 きっとミニナム

—まず、この『世界は嘘で出来ている』というタイトルにとっても興味が湧きます。

田村●これ、本当は嘘ばかりついている人の話を書こうと思っていたんですよ。そのルーツを探るような。そしたら、現実のほうで嘘ついている人がどんどん出てきて。

平田●でも、急にそういう人が出てきたわけじゃないよね。むしろ、「世に出ない嘘つき」のほうが成功していたりもする。

田村●その通りで、ニュース見るとけっこう「嘘つけ」って思うことがあって。でも、嘘のきっかけはきっと、すごくミニナムなことで、社会的に大きくなっていくまでのことは、本人は絶対考えてなかったんじゃないかって思ったんですよ。それで、ち

に美しいものがある、合わせ鏡なのかなって。まだ、全然書けてないんですけど。

演出家というより アレンジャー

——平田さんは、田村さんのどういったところに魅かれて今年の『父よ!』を依頼されたんですか？

平田●さっき「人が転がっていくとどんどん話が変わる」って言ったけど、田村さんはあてがきですね。『父よ!』も完全なあてがきで、「兄弟」というのは田村君のアイデアですけど、僕自身、僕の皮膚感覚に近い人物たちが出るんで、地に足がついた会話劇じゃないけど、そういうところで書いてもらえればと思ったんですよ。

田村●あれは、最初、平田さんとキャスティングの話をしたんですね？ それで、本当に兄弟に見えるような、どこか似てる人を集めてやったら面白そうだなって。あのキャストがあったからこそ、親の面倒を見たがらない4人兄弟っていう話が生まれた。

平田●そうそう。それで僕も、「あれ?どうなるんだろうな、この4人は」って思いながら。

田村●僕は、すごく役者さんに依存するんです。僕はスタートが作家でもないし演出家でもないから、どっちにもコンプレックスがあるというか。自分の発想のなかで起こっている物語ってあんまり面白くないなって、すごく思っていて、だから、この役を平田さんがやっていたらどうか、この人物たちがこんな会話したらどうということになるのかなとか、この人に言わせてみたい、喋ってもらいたいっていうのが、すごく手がかりになりますね。

平田●いや、古今東西のいろんな戯曲を読んで舞台を見てきてね、僕の考える演出力というのは、まず第一に人間がいるのが好きだという、そこからしか発想できないんじゃないかと。まずキャストがいて、彼・彼女が田村さんのなかで動くっていうのは、まさにそういうことで、その人間が浮かび上がったり、自分でも思いがけない行動を取ったり、喋ることで何かを感じたり、というのを、すごく大事にしているなって、最初に感じたんですよ。

田村●だって、台本に書かれているセリフを喋るにしたって、その時点で、その人なりの解釈っていうのが生まれてきますよね。どうしたって。

平田●下手をすれば、その状況にいるだけでもね。

田村●僕は割と、その解釈を見ていることが多くて、それと僕のイメージが違えば違



うほど面白い。だから、僕は演出家というよりアレンジャーだと思っているんです。その人の解釈をアレンジしていく役割というか。平田●じゃあ、演出だけとか作だけといったら、どっちがいい？

田村●演出だけが精神的には楽で、作だけが一番しんどいかな。まあ、やっぱり作・演出が一番居心地がいいですね。

豊橋の、 客席との関係が心地いい

——『父よ!』も豊橋が最初で、今回もPLATから東京・下北沢のザ・スズナリへ行きま

す。今年のPLATでの公演はどうでした？
田村●あれは、僕のなかでとても良かった。なんていうか、客席との関係がね、斜めに構えて観られているっていう雰囲気がないんですよ。それを東京に持っていくっていうのを、自分の劇団公演で経験してみたいなって、ずっと思っていた。

平田●アートスペースは、スズナリよりちょっと大きいけれど、その辺の不安はない？

田村●僕、アートスペースぐらいの広さって好きなんです。小さくなれば小さくなるほど、責任感が強くなってくるんで。だって、目線ひとつ、指先ひとつ全部お客さんに見えちゃうんだから。それに今まで、新作って、地方でやりたくてもどんなものかわからないからやらせてくれないっていうところばかりだったんですよ。

平田●各地にね、これぐらいのスペースがあってやってくれればいいよね。東京の小さい所で2週間とかやって終わっちゃうというには、もったいない作品がいっぱいある。アートスペースは自由だから、どんな世界でも作ってください。

——最後に、田村さんから豊橋のお客さんに期待してほしいなと思うことがあれば。

田村●僕の恩師のコピーに、「寂しかったらふらりとおいで。決してただでは帰さないから」って殺し文句があったんですよ。今、

いろんなところが危うくて、それこそうちに戻ってきたら一番安心できるっていう感じでもなかったりする。だから、ふらりとおいでって。未来のないものを創る気はないから、明るいかどうかは別にしても、希望のある物にはしたいなと思っています。



[たむら・たかひろ] 1976年生まれ。東京都出身。1998年劇団「ONEOR8」を旗揚げし、作・演出を務める。2005年に書き下ろした『絶滅のトリ』、『連結の子』が岸田國士戯曲賞候補になり注目を集め、近年は様々なプロデュース団体にも作品を提供し、演出も手掛ける。主な作品にプリエールプロデュース『おしるし』（作・演出）、シアタークリエ『ええから加減』（作・演出）など。その他、映画シナリオ執筆も増え、今後の活躍が注目される作家である。

とよはし演劇工房 ONEOR8

『世界は嘘で出来ている』

- 作・演出=田村孝裕
- 出演=恩田隆一・伊藤俊輔・和田ひろこ・野本光一郎・富田直美・山口森広／古屋治男・異儀田夏葉(KAKUTA)・浅野千鶴(味わい堂々)／矢部太郎(カラテカ)／甲本雅裕

●日時=10月16日[木]19:00開演
17日[金]14:00開演／19:00開演

※各公演終了後にアフタートークあり。(ゲスト=16日 平田満、17日14:00 甲本雅裕、17日19:00 矢部太郎)

- 会場=PLAT アートスペース
- 料金=[全席指定]一般3,600円
- チケット発売:会員先行=8月2日[土]
一般発売=8月10日[日]

『背信』

10月4日・5日 PLATアートスペース

演出・出演

長塚圭史

劇場は、 人間の原始的な能力が 活性化するところ

今年、PLATに初登場の長塚圭史さん。自ら戯曲を書いて演出し、出演もする彼は、一方で、テネシー・ウィリアムズや三好十郎といった、いわば先達の作品にも挑戦しています。今回の『背信』も、2005年にノーベル文学賞を受賞したハロルド・ピンターによる戯曲で、舞台は1970年代のイギリスです。イギリスへの演劇留学を経験し演劇そのもののあり方を問い続けたという彼を、さまざまな形で演劇へと向かわせるものは何か。短時間ながら、存分に語っていただきました。

——そもそも演劇を始めたきっかけは？

長塚●父が俳優をしている影響もあって、幼い頃からずっと映画を見続けてきていて。そうなるとも目肥えてくるし、惹かれもする。ただ、映画って機材がいるでしょう。どうやって集めたらいいのかわからない。だったら手っ取り早く演技体験が出来るだろうと高校で演劇部に入ったのが最初です。でも気がつけば女子部員ばかりでね。なかなか窮屈。だから大学生の人と小屋を借りて芝居やったりもしていましたね。

——初めて作・演出を手掛けたのもその頃ですか。

長塚●高校3年の終わりに、演劇とは関係ない、だけど僅かでも興味は持ってくれていた運動部の同級生たちとやったのが最初です。大学に入った頃にはもう、自分で作・演出したいんだってことが、心の中では決まっていたと思います。それで、また人を集めて、大学1年の秋に劇団を立ち上げました。

イギリスで日本の戯曲に 向き合った

——その後、「阿佐ヶ谷スパイダース」というユニットを経て、2008年に文化庁の新進芸術家海外研修制度でイギリスに留学しています。

長塚●僕の中ではイギリスに行く3年ぐらい前から何かが始まっていたんですよ。当

時、僕はちょっと人気があって、「あれやってほしい、これやってほしい」って、わりと間断なく依頼を受けてたんですね。お客さんが求めるものに、僕が全力で応えて、それをお客さんが喜んでくれて、ハッピーだったんです。でも僕は、高校のときから新作のお芝居を創って演出するというのをずっとやってきて、少々疲弊してきていたというか。「そもそもなぜ演劇か」ということに、恥ずかしながらもまともに向き合わずに来て、このままでは続けていくことはできないだろうなって思うようになっていた。

だから、イギリス留学中の前半は、なぜ演劇かってことをずっと、本当にうつうつと考えていましたね。多分、劇場というのは、人間の原始的な能力が活性化される場所なんです。想像力ですね。台詞や舞台装置、照明や音響から刺激され、さまざまな想像力を働かせ、海や山、懐かしい風景から未知の荒野まで、あらゆるものを頭の中で作り上げて目の前の芝居と結びつけて見ている。何でもある、次々色々なものが出て来る、あるわかりやすさを持ったお芝居も面白いですがね、本当は、「ない」ところからスタートさせなくてはいけないんじゃないか、そこに豊かさがあるんじゃないかと。

留学中、井上ひさしさんの『父と暮らせば』の英語版を使って、ナショナルシアターのスタジオでイギリス人の俳優たちとワー



クショツプをやりました。どうやったらこの作品を、日本人ではなくイギリス人が演じることによって更に深く伝えられるか、必死で考えました。日本人の格好をしてやればいいって、そんなものじゃないよねって。そういう視点を獲得する一年でした。

三好十郎さんの『浮標』に出会ったのも留学中です。英語に囲まれていたから、日本語の響き方が半端じゃないんですよ。日本語に故郷を感じるという体験。『浮標』と向き合うことは、何か日本人の深いところ、たとえば戦後、戦争、明治維新とか、江戸時代とかもっと古い時代、そういった経緯があって僕らはいま現在ここに立っているという実感、そういう新しい体験をする予感が迫ってきた。現代劇としてやれば「かつての戯曲」ではなくなるぞってね。さっそく田中哲司さんに、「やりたいことがあるんだ」って、連絡した。

——イギリスから!?

長塚●はい。すぐに覚悟を決めてくれました。こんな凄いものに立ち向かえるならギャラなんかいらなからね!って。

奇妙な体験を 観客とともに味わいたい

——『背信』では、その田中さん、そして松雪泰子さんと3人で舞台に立たれます。

長塚●『浮標』を、忘れかけていた1930年代、40年代、さらには万葉の時代までの日本人に繋る記憶劇として捉えているんですけど、『背信』は、そうした僕の解釈抜きに、もっと具体的に記憶劇であると思うんです。この劇は、時間に逆らって過去にさかのぼって行きます。この違和感を観客と作り手が体感してゆくと、スリルが生じる。現実的には有り得ない時間の逆行の中にあるのに、むしろ曖昧で過渡



葛河思潮社 第二回公演『浮標』 2012年9月20日~30日 世田谷パブリックシアター
(左から) 田中哲司 松雪泰子 撮影:五十嵐絢也

的でうつろいがちな人間の生々しさが浮かび上がってくる。凄い戯曲です。

僕も出演する以上、演技手はこの2人以外に考えられませんでした。2人とも、稽古の価値を理解していて、その時間を大切にします。田中さんは、一緒に芝居を観に行っても、「稽古場の苦勞が見えると面白いよね」って、つまり、演劇はプロセスから大事だとわかっている。松雪さんも、稽古場で僕がちょっと変わった試みをする、嬉しそうに寄ってきて、これはいいね、ここもちょっと出来るよねって、そういう好奇心、探究心がすごくいいんです。

なかには、変わり映えのしないキャストिंगだって思う人もいるかもしれないけど、でも、なんかね、毎回新しいキャストにこだわるのも、どうかと思うんです。それで僕は、帰国してからはゆっくりと、一緒に作れる仲間を一人ひとり見つけていくようにしてきています。

——豊橋のお客さまは、初めての人がほとんどだと思います。

長塚●すごく嬉しいですね。僕らのことを知らない、芝居に触れたことの少ない人が劇場にやってくる。最初の興奮ですね。一度知り合うとまたちょっとずつ変化してきたりね。そういう関係が面白い。

[聞き手=PLAT事業制作グループチーフ:矢作勝義]

[ながつかけいし] 1975年、東京都出身。1996年、演劇プロデュースユニット「阿佐ヶ谷スパイダース」を旗揚げ、作・演出・出演の三役をこなす。平成20年度文化庁新進芸術家海外研修制度にてロンドンに留学。帰国後の2011年、「葛河思潮社」を立ち上げ、演出・出演で三好十郎作『浮標』『冒した者』を上演。近年の作品に『音のいない世界』作・演出・出演、『あかいくらやみ〜天狗党幻譚〜』作・演出・出演、『マクベス』演出など。読売演劇大賞優秀演出家賞など受賞歴多数。

葛河思潮社 第三回公演『冒した者』 2013年9月5日~10日 KAAT神奈川芸術劇場 大スタジオ
(後) 田中哲司 (前) 松田龍平 撮影:加藤 孝



前売予定枚数終了 追加席及び当日券の販売に關しては、後日発表いたします。

葛河思潮社『背信』

- 作=ハロルド・ピンター
- 翻訳=喜志哲雄 ● 演出=長塚圭史
- 出演=松雪泰子/田中哲司/長塚圭史
- 日時=10月4日[土] 19:00開演
5日[日] 14:00開演
- 会場=PLAT アートスペース
- 料金=[全席指定] 一般6,000円

PLAT NEWS 2014 INFORMATION

主催公演情報

チケットの購入・お問合せ

プラットチケットセンター〔会員先行・一般発売〕

- Web = <http://toyohashi-at.jp>
- ホームページから24時間いつでも予約可能です。※プラットフランスへの登録が必要です。
- Tel = 0532 (39) 3090
- 窓口 = 穂の国とよはし芸術劇場 1F Tickets & Informationカウンター

受付時間〔Tel・窓口〕
10:00～19:00
(休館日をのぞく)

U24・高校生以下割引のご案内

若い人にこそ生の舞台を楽しんでもらいたいから、ほぼすべての豊橋文化振興財団主催公演に割引料金を設定しています。

- 料金 = U24 [24歳以下対象]: 公演ごとに指定する席種の半額
高校生以下: 一律1,000円
- 購入方法 = 各公演の一般発売初日から窓口にて取扱い。
※一部公演により発売開始日や発売方法が異なります。
- その他 = 本人のみ1公演につき1人1枚。枚数限定。
座席の指定はできません。要・入場時身分証明書提示。

8/16 SAT — 17 SUN 好評発売中

平成26年度公共ホール演劇ネットワーク事業
こどもとおとなのためのお芝居

『暗いところからやってくる』

- 作 = 前川知大 ● 演出 = 小川絵梨子
- 日程 = 8月16日〔土〕11:00開演・15:00開演
8月17日〔日〕11:00開演・15:00開演
- 会場 = PLAT主ホール舞台上特設舞台
- 料金 = [日時指定・全席自由・整理番号付き] 大人:3,000円
24歳以下:1,500円 / 中・高校生:1,000円 / 小学生:500円

8/24 SUN — 25 MON

前売予定枚数終了 当日券の販売に関しては8/20以降にお問合わせください。

ミュージカル『王様と私』

- 作曲 = リチャード・ロジャース
- 作 = オスカー・ハマースタインII
- 演出 = 山田和也
- 出演 = 松平 健、紫吹 淳、はいだしょうこ ほか
- 日程 = 8月24日〔日〕12:00開演・17:00開演 / 25日〔月〕13:00開演
- 会場 = PLAT主ホール

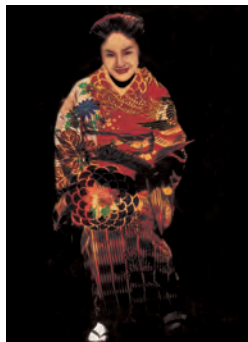
9/14 SUN — 15 MON

白石加代子『百物語』

第三十二夜 第九十九話ファイナル公演
白石加代子が贈るたった一人のエンターテインメント。

- 構成・演出 = 鴨下信一
- 出演 = 白石加代子
- プログラム = 三島由紀夫『橋づくし』、
泉 鏡花『天守物語』
- 日程 = 9月14日〔日〕18:00開演
15日〔月・祝〕15:00開演
- 会場 = PLAT主ホール
- 料金 = [全席指定] 一般:4,000円

※12月7日〔日〕PLAT主ホール『国本武春の
大忠臣蔵』との2公演セット券6,000円〔枚
数限定、9月13日まで〕



“百物語”なのに九十九話でファイナル?

『百物語』は100本の蠟燭を灯し、一人ずつ、自分の身に起こった恐い話をしていくものです。話終えるごとに、蠟燭の灯芯を一本消す。やがて百の話が話し終わり、すべての灯芯が消されると、闇の中から真の恐ろしい魔物が現れると言い伝えられています。だから百本目の話は決して、語ってはいけません。1992年6月に始まった『百物語シリーズ』も九十九話のシリーズを持って打ち切りとなります。二十余年の年月を経て、このシリーズはやっとゴールに辿り着きます。

9/27 SAT — 28 SUN

ライフポートとよはし

開館20周年記念式典&コンサート

ライフポートとよはし開館20周年を記念して市内で活動する音楽家が集います。朝から晩まで音楽漬けの2日間!

- 日程 = 9月27日〔土〕10:00～20:30 / 28日〔日〕11:00～18:00
- 会場 = ライフポートとよはし ● 料金 = 入場無料

10/1 WED・12/14 SUN 好評発売中

ライフポートとよはし開館20周年記念コンサート

佐藤美枝子&錦織 健

『ドニゼッティの愛の世界』

- 出演 = 佐藤美枝子〔ソプラノ〕 / 錦織 健〔テノール〕
- 日時 = 10月1日〔水〕18:30開演

仲道郁代&横山幸雄 ピアノ・デュオ

- 出演 = 仲道郁代、横山幸雄
- 日時 = 12月14日〔日〕16:00開演
- 料金 = [全席指定] 2公演セット券〔S席〕:7,000円
S席:4,000円 / A席:3,000円
ユースチケット〔24歳以下〕 S席:2,000円 / A席:1,500円
- 会場 = ライフポートとよはし コンサートホール

10/4 SAT — 5 SUN

前売予定枚数終了 追加席及び当日券の販売に関しては、後日発表いたします。

葛河思潮社『背信』

- 作 = ハロルド・ピンター ● 翻訳 = 喜志哲雄 ● 演出 = 長塚圭史
- 出演 = 松雪泰子 / 田中哲司 / 長塚圭史
- 日時 = 10月4日〔土〕19:00開演 / 5日〔日〕14:00開演
- 会場 = PLAT アートスペース ● 料金 = [全席指定] 一般:6,000円

10/16 THU — 17 FRI

会員先行 = 8月2日〔土〕 一般発売 = 8月10日〔日〕

とよはし演劇工房 ONEOR8

『世界は嘘で出来ている』

- 作・演出 = 田村孝裕〔ONEOR8〕
- 出演 = 恩田隆一 / 甲本雅裕 / 矢部太郎〔カラテカ〕 / 古屋治男 他
- 日時 = 10月16日〔木〕19:00開演 / 17日〔金〕14:00開演・19:00開演
※各公演終了後にアフタートークあり。(ゲスト = 16日:平田満、17日14:00:甲本雅裕、17日19:00:矢部太郎)
- 会場 = PLAT アートスペース
- 料金 = [全席指定] 一般:3,600円

10/29 WED

会員先行=8月9日[土] 一般発売=8月24日[日]

二兎社『鷗外の怪談』

- 作・演出=永井 愛
- 出演=金田明夫/水崎綾女/内田朝陽/若松武史 他
- 日時=10月29日[水] 18:00開演
- 会場=PLAT 主ホール
- 料金=[全席指定] S席:5,500円
1階バルコニー席:4,500円/A席:4,000円

11/1 SAT — 3 MON

会員先行=9月6日[土] 一般発売=9月14日[日]

高校生と創る 穂の国の『転校生』

平田オリザの代表作『転校生』。1994年初演から20年後の今年、オーディションを通過した県内の女子高校生21人が、PLATとプロのスタッフとともに挑みます。

- 作=平田オリザ[青年団]
- 演出=広田淳一[アマヤドリ]
- 日時=11月1日[土] 19:00開演
2日[日] 13:00開演・19:00開演
3日[月・祝] 13:00開演・17:00開演
- 会場=PLATアートスペース
- 料金=[日時指定・全席自由・整理番号付き] 一般:2,000円

PICK UP!

総勢21人。

体のエネルギーで魅せる会話劇。 広田淳一

一見、女子高生がひたすらお喋りをしているだけのこの戯曲。彼女たちの日常の断片に、「生まれる」と「死ぬ」ことがさりげなく配置されています。転校、変身、生、老、病、死、そんなことが「うどん食いてー」と同じ次元で語られる。平田オリザさんならではの手腕です。今作では、彼の演劇の特徴ともいえる複数の会話が同時に展開される“同時多発”の会話が、もっとも激しいレベルで舞台上に解放されることとなります。とても柔らかい口語で書かれたこの戯曲を、体のエネルギーを大事にして作品を創ってきた僕が、いかに身体で魅せる会話劇にしていけるか。どんな舞台ができあがるのか、僕自身も楽しみにしています。



広田淳一

[ひろた・じゅんいち]

劇作家・演出家・俳優。2001年、東京大学在学中に演劇集団「ひょっとこ乱舞」を旗揚げ、主宰。以降、全作品で脚本・演出を担当し、しばしば出演。さりげない日常会話ときらびやかな詩的言語に、身体性を絡めた表現を展開。随所に音楽やダンス的な要素を縦横無尽に取り入れ、リズムとスピード、熱量と脱力が交錯する世界を生み出す。簡素な舞台装置と身体的躍動感を必須としつつ、相互作用のあるダイアログにこだわる。12年、劇団名を「アマヤドリ」と改称して再出発。

11/30 SUN

会員先行=8月23日[土] 一般発売=8月30日[土]

『C.U.G.ジャズオーケストラ LIVE at PLAT』

- 出演=C.U.G.ジャズオーケストラ/マヤ・ハッチ
柳瀬けいこ/琳佳
- 日時=11月30日[日] 18:30開演
- 会場=PLAT主ホール
- 料金=[全席指定] S席:3,000円/A席:2,000円
ユースチケット[A席]:1,000円[24歳以下]

12/7 SUN

会員先行=9月13日[土] 一般発売=9月21日[日]

『国本武春の大忠臣蔵』

年末恒例『忠臣蔵』、ご存じ「松の廊下〜吉良邸討ち入り」を面白おかしく、最後にグッとくる奇想天外な演出にてお贈りする浪曲界のカリスマが豊橋に初登場。

- 出演=国本武春
- 日時=12月7日[日] 15:00開演
- 会場=PLAT主ホール
- 料金=[全席指定] 一般3,000円

※9月14、15日PLAT主ホール 白石加代子『百物語』との2公演セット券6,000円【枚数限定、9月13日まで】



12/12 FRI — 14 SUN

会員先行=10月5日[日] 一般発売=10月12日[日]

てがみ座『新作』

- 作=長田育恵 ●演出=扇田拓也
- 会場=PLATアートスペース

※詳細が決まり次第、劇場HPなどで告知させていただきます。

受付開始=8月10日[日]

グロトリアンを弾いてみよう!

グロトリアンピアノの響きを体験できる機会を設けました。大切に扱ってくれる方ならお子様でもかまいません。

- 日時=8月26日[火]、27日[水]、28[木] 各日10:00-21:00
- 会場=PLAT創造活動室A
- 参加料=1時間あたり1,000円
- 対象=ピアノが演奏できる方。
- 募集人数=毎時00分から1時間単位で最大2時間まで。
- 申込方法=プラトチケットセンター
電話のみ TEL:0532 (39) 3090

※今後も随時開催してまいります。日程等は本誌や劇場HPなどでご案内いたします。

感じたことや出会ったことが さらに次へと繋がっていく

PLATレクチャーシリーズ#1

『ワークショップイントロダクション —ふたつの視点—』から



今夏から、PLATでは新たな試みとして『ワークショップファシリテーター養成講座』をスタートします。でも、「ワークショップ」も「ファシリテーター」も、わかるようなわからないような、どこか漠然としているというのが本当のところではないでしょうか。そこで、第一弾として企画したのが、いわば入門編ともいえる『ワークショップイントロダクション—ふたつの視点—』。6月27日に愛知大学文学部メディア芸術専攻科准教授の吉野さつき氏を、7月16日にPLAT事業制作グループチーフ・矢作勝義を講師に、PLAT研修室(大)で行いました。ここでは吉野氏のお話を紹介いたします。

そもそも ワークショップって何?

「ワークショップ」のもともとの意味は、「仕事場」「作業場」「工房」。それが今では、参加者が、専門家の助言を得ながらともに問題を解決する場として、教育、福祉、街づくりなど、さまざまな場に浸透してきています。

「いろんな人がワイワイと意見を交換したり、何かの創作手法を使ってみんなでアイデアを構築していくワークショップは、従来の、先生や講師から講義を受ける方法と違って、民主的ともいえるし、楽しい場でもあります」と、吉野さん。「その場にいる人の存在をまると受け入れるところからスタートするので、参加者にはとても心地よい場所でしょう」と、続けます。一方で、短時間で何かを決

めたり一定の知識を習得するには非効率的な上に、参加者が「楽しかった」だけで終わってしまう可能性もなきにしもあらずです。「だからといって、『これはこうだから』と、誰かがまとめてしまったりすると、ワークショップではなくってしまいます」(吉野さん)。

アーティストの「目」を学び、 広げるために

そこで出てくるのが「ファシリテーター」。「進行役」「調整役」というほどの意味ですが、いわゆる司会者とは少々異なります。さまざまな意見が飛び交うなか、中立的な姿勢で、参加者の心の動きも見ながら一つの流れを作っていく人、といえいいでしょうか。

「ワークショップというものを効果的に活かすためには、ファシリテーションの技術や知

識が求められます」と、吉野さん。一人一人の意見や表現を引出し、参加者同士のコミュニケーションを促し、関わりをもたせることで、創造的で、より豊かな時間となるよう調整する役どころで、これからPLATが試みるのも、こうした人材の育成です。

もちろん、「芸術劇場」であるPLATが取り組むワークショップのジャンルは芸術。吉野さんは、その可能性を「アーティストって、誰も気づかないようなことに気づいてしまう人たちです。そんな彼らの視点や発想を、同じ場で体感して学ぶことで、自分たちも同じように気づいて表現する場を作っていけると思います」と話します。

こう言われてみると、今まで行ってきた劇作家、演出家、俳優、美術家など、さまざまなアーティストによるワークショップは、その種蒔きでもあったと実感します。「単に学ぶだけでなく、感じたこと、関わりが生まれたことが、さらに次に繋がっていくことが理想的だろうし、私が創りたいワークショップも、そういう場なんだと思います」(吉野さん)。

ファシリテーターは新たな表現や発信の場のクリエイターであり、伝道師ともいえるそうです。



[よしのさつき] 愛知大学文学部メディア芸術専攻准教授。シティ大学大学院(英国)芸術政策経営学部修士課程修了後、公共ホールの文化事業担当を経て、平成13年度文化庁派遣芸術家在外研修員として、英国で演劇のアウトリーチやエデュケーションプログラムの研修と調査を実施。教育、福祉、ビジネスなどの現場でさまざまなジャンルのアーティストによるワークショップをコーディネートする他、各地の公共ホールや大学などで、アウトリーチ事業やワークショップの企画運営を担う人材育成プログラムにも数多く携わる。文化経済学会(日本)会員。

芸術文化アドバイザー 第7回 平田 満のちよこつとエッセイ



「太宰治 リーディング」

先日、6月の「桜桃忌」にちなんで、太宰治の作品を朗読劇という形で上演しました。太宰と思いき作家の語りの『桜桃』と、無頼作家の内縁の妻の語りで『ヴィオンの妻』を読みました。装置も幕もない素舞台上で何ができるかという挑戦でもありましたが、私自身からは隔たりのある人物の語りを読むだけなのに、思わぬ感情の揺れが自分でも新鮮でした。

聞きかじりですが、哲学者マルブランシュは、「すべての感情は内的な楽しさ、よろこびを帯びるもので、感情とは“私は何者なのか”を教えてくれるものである」と考えていたようです。

難解な哲学のことはよくわかりませんが、芸術に触れるよろこびや感動は、まさにそこにあるのではないのでしょうか。思わぬ感情に突き動かされる時、「私ってこんな気持ちや感じ方をするのか」とか、「理屈じゃわかんないけど生きていくってこういうことかもしれない」とか、「恥ずかしいけど私はこういう感情が嫌いじゃない」と共感したりした経験はありますか?

劇場での“よろこび”とはそんな“よろこび”かもしれないと、今回のリーディングで思いを新たにしました。

<p>白井琢也公認会計士事務所 〒440-0862 愛知県豊橋市向山小池町1-1番地の九 http://www.shirai-pta.com 電話 0532-5712360</p>	<p>本豊川堂 カブミヤ店 五五〇一六八八番 アピタ店 五五〇一八八〇番 五五〇一六三三番</p>	<p>代表取締役 竹尾 誠 株式会社 竹尾建築設計事務所 豊橋事務所 / 豊橋市平川南町91-2 〒440-0035 Phone: 0532-62-1331 (代) Fax: 0532-62-1332 浜松事務所 / 浜松市東区流通元町13 〒435-0007 Phone: 053-422-3628 (代)</p> <p>医療法人 羔羊会 弥生病院 日本医療機能評価機構認定 渡辺のり子 (東高2回生) 〒441-8106 豊橋市弥生町字東豊和96 TEL (大代) 48-2211</p>	<p>外科・内科・胃腸科・麻酔科・消化器科・呼吸器科 伊藤 藤 文之 二 院 豊橋市小池町字原下三二五 電話四五五二八三番(代)</p>	<p>看板広告 アラキスタヂオ 豊橋市上伝馬町十六 電話 〇五五八六番</p>	<p>医療法人 慈 豊会 大島整形外科クリニック 理事長 大島 照夫 院長 大島 毅 東田町井原三九の七(市電赤岩口駅前) 電話 六二一五五一(一)番(代)</p>	<p>医療法人 赤岩病院 光生会病院 電話 六二一五五番</p>	<p>YMバレエ カンパニー ハートフ 21 8610</p>	<p>有限会社 魚 伊 電話 52-5256</p> <p>本と文具なら 精文館書店 TEL.54-2345</p>
--	---	---	--	---	--	--	---	---

<p>竹内産婦人科 産婦人科 婦人科(不妊治療) 豊橋市新本町23 豊橋 竹内産婦人科 検索Q</p>	<p>氷各種販売 / 冷蔵倉庫業 大正冷蔵 本社 豊橋市湊町117 TEL: 0532-52-1161 FAX: 0532-52-8015</p>	<p>山本製粉株式会社 ホンポ なつかしの味 なつかしの味</p>	<p>写楽集団・クラブ KAIHO パートII KOTARU DAIGOLAW NORI-G 法務 NOBU GUCCHI 倫理 MATSUO TAKEDA 環境 整備 photo</p>	<p>株式会社 谷山建築設計事務所 豊橋市西羽田町一八三 http://taniyama-archi.com</p>	<p>調理と製菓の美しい資格。 豊橋調理製菓専門学校 豊橋市八町通一丁目三十二 TEL 五二二八〇九</p>	<p>グロトリアンピアノ地域特約店 白羽楽器株式会社 電話 0531-46413015</p>
<p>株式会社オノコム ONOCOM</p>	<p>YOSHINO ASSOCIATES architects & engineers http://www.440a.co.jp</p>	<p>SUBARU スバル東愛知販売(株)</p>	<p>稲荷 壺屋弁当部 TEL: 0532-31-1131 FAX: 0532-31-1135</p>			

<p>気まぐれコンサート 事務局 / 0532-62-9259 (小川恵司)</p>	<p>am.10:00~pm.5:00 るる 茶房 甘味処 抹茶・コーヒー あんみつ・豆かんでん 中岩田5丁目6の4 TEL.63-0202</p>	<p>広告募集 共和印刷株式会社 豊橋市小池町36番地の1 TEL 461132881 FAX 46132885</p>	<p>整形外科・皮膚科・リウマチ科・リハビリテーション科 医療法人 大岩整形外科・皮フ科 院長 大岩 俊久 豊橋市大橋通二丁目二五 電話 五五二一〇〇</p>	<p>創業文政年間 日栄 ぎく宗 豊橋市新本町40 電話 52-5473番</p>	<p>練物 専 家 なりの花でん コラフロント ホテルアークリッシュ1F</p>	<p>豊橋名産 みちくわ</p>
<p>井上皮膚科クリニック ☎ 0532-55-7007 診療時間 月・火・木・金 10:00~13:00 16:00~19:00 土 10:00~14:00 休日=水・日・祝 愛知県豊橋市向山町字中畑13-1 マイルストーン1F</p>	<p>塩之谷整形外科 院長 塩之谷 昌 副院長 塩之谷 香 豊橋市稲田町開成54 ☎ (0532) 25-2115 (代)</p>					

<p>プラットフォーム募集中 [入会金・年会費無料]</p> <p>特典 1 公演情報をメールでご案内します。 特典 2 インターネットでチケット予約ができます。 特典 3 主催公演のチケットを一般発売に先がけてご予約できます。</p> <p>登録方法 ●WEBで登録 [穂の国とよはし芸術劇場HP] http://toyohashi-at.jp ●携帯で登録 https://piagettii.e-get.jp/online-ticket/de/ ●窓口で登録 穂の国とよはし芸術劇場 Tickets & Information カウンター</p>	<p>チケット購入案内</p> <p>◆プラットフォームセンター [会員先行・一般発売] Web=http://toyohashi-at.jp ※プラットフォームへの登録が必要です。 Tel=0532(39)3090 受付時間 [Tel・窓口] 10:00~19:00 (休館日をのぞく) 窓口=穂の国とよはし芸術劇場1F Tickets & Information カウンター</p> <p>◆その他 [一般発売・公演によって販売所は異なります] チケットぴあ / カルミア2Fサービスセンター ほの国百貨店6Fプレイガイド など</p>
<p>穂の国とよはし芸術劇場 PLAT 〒440-0887 愛知県豊橋市西小田原町123番地 Tel=0532(39)8810 [代表] http://toyohashi-at.jp 開館時間=9:00~22:00 休館日=第三月曜・祝日の場合は翌日・年末年始。 豊橋駅 (JR東海道新幹線・東海道本線・名古屋鉄道)、新豊橋駅 (豊橋鉄道渥美線) 直結。豊橋駅南口から徒歩3分。 ※駐車場はありません。公共交通機関、お近くの公共駐車場等をご利用下さい。</p> 	

PLAT CALENDAR

9 SEPTEMBER

- 5 FRI 第725回邦楽鑑賞会 豊橋市民文化会館
- 6 SAT 吟詠剣詩舞有志の集い 文化の祭典20周年記念大会 PLATアートスペース
～プレミアム マニアック シリーズ 第一弾～ 国府弘子アコースティックトリオ PLAT創造活動室A
- 6 SAT—7 SUN 劇団しゅらざ「ここに家郷あり」 新城文化会館
- 7 SUN 東三河合同ダンス発表会「Dance Act」 PLAT主ホール
- 13 SAT—14 SUN 劇団しゅらざ「ここに家郷あり」 ハートフルホール
- 14 SUN—15 MON 白石加代子『百物語』第三十二夜 第九十九話ファイナル公演 PLAT主ホール
- 20 SAT ハーフ、ミックスモデル、ユニット【No-side】ファンミーティングLIVE PLATアートスペース
映画「生まれる」上映会&家族写真撮影会 PLAT研修室(大)
- 21 SUN WORLD DANCE CARNIVAL! ワールドダンスカーニバル2014～アレグレコのサーカスがやってきた～ PLAT主ホール
丸山薫研究会 講演会「丸山薫のたのしさ」 PLATアートスペース
- 22 MON—24 WED 豊橋演劇鑑賞会第244回例会 青年劇場公演「島」 PLAT主ホール
- 22 MON 中日新聞社主催 悠々自適セミナー PLATアートスペース
- 23 TUE 豊橋に日本一の図書館をつくらう発表会(仮題) PLATアートスペース
- 24 WED—28 SUN 第94回 華墨展 豊橋美術博物館
- 27 SAT 王侃 二胡&伝統楽器コンサート PLATアートスペース
- 27 SAT—28 SUN ライフポートとよはし開館20周年記念式典&コンサート ライフポートとよはし
- 28 SUN 東三河ダンスカンパニー主催ダンス公演 豊橋市民文化会館
穂の国コンファレンス2014in豊橋 ～JCフェスティバル! ともに築こう、東三河の輝ける未来を～ PLAT主ホール他

10 OCTOBER

- 1 WED ライフポートとよはし開館20周年記念コンサート 佐藤美枝子&錦織健『ドニゼッティの愛の世界』 ライフポートとよはし
- 1 WED—5 SUN 第47回表装美術展 豊橋市民文化会館
- 3 FRI 第726回邦楽鑑賞会 豊橋市民文化会館
桜丘中学校総合学習(ミュージカル)発表会 PLAT主ホール
- 4 SAT—5 SUN 葛河思潮社『背信』 PLATアートスペース
- 7 TUE 第13回「東三河童謡唱歌のつどい」 豊橋市公会堂
- 11 SAT Belly dance 公演『Daret El Ayam』豊橋のベリーダンサーが集結します!!! PLAT主ホール
- 12 SUN 東日新聞ピンクリボンセミナー 2014「もっと乳がんを知ろう」 PLAT主ホール
- 13 MON 豊橋おやこ劇場協議会 デブ・パベットシアター・ひとみ『森と夜と世界の果てへの旅』 PLAT主ホール
第38回 豊橋文化祭川柳大会 豊橋市民文化会館
- 16 THU—17 FRI とよはし演劇工房 ONEOR8『世界は嘘で出来ている』 PLATアートスペース
- 18 SAT—19 SUN 第60回豊橋まつり“東京ディズニーリゾート®スペシャルショー” PLAT主ホール
秋の市民大茶会 豊橋市民文化会館
豊橋総合いげばな展 豊橋市民文化会館
- 25 SAT—26 SUN 「ホスピスと共にささえあう街」生と死を考える会 全国協議会2014年度全国大会in豊橋 PLAT主ホール
- 26 SUN 第57回邦楽大会 箏曲・長唄・小唄・尺八・琵琶・能楽の部 豊橋市民文化会館
第45回合唱祭 兼 第17回三遠南信文化交流 合唱の集い ライフポートとよはし
- 29 WED 二兎社『鷗外の怪談』 PLAT主ホール

[表紙写真] 10月主ホール公演『鷗外の怪談』の作・演出、永井愛。
思索の庭で鷗外に思いを巡らせる。

企画・発行＝公益財団法人豊橋文化振興財団
編集＝森 絹江
デザイン＝松吉太郎デザイン事務所
写真[表紙]＝谷古宇正彦
平成26年8月 発行9号 [隔月発行]

穂の国とよはし芸術劇場

TOYOHASHI ARTS THEATRE
〒440-0887 愛知県豊橋市西小田原町123番地
Tel 0532(39)8810[代表] <http://toyohashi-at.jp>